

更生保護女性会会長賞

堺市立 宮山台中学校 二年

田 中 さ ゆ か

「日本の治安の未来」ー今、私たちにできることー

日本は、世界トップレベルの「治安の良い国」として有名です。日本に来た外国人観光客は、日本人が親切でモラルが高い事や、日本は治安が良くて夜道を一人で歩けたり、落とした財布や携帯電話が戻ってきたりすることが驚きだと紹介している動画を見たことがあります。一方で、テレビなどのニュースで傷害や殺人事件について連日のように報道されているのを見て、日本は本当に治安が良いのか心配になりました。調べてみると、二〇〇三年に刑法犯の認知件数が戦後最多となり、それ以降減少を続け、現在はピーク時の五分の一近くまで減少していることが分かりました。しかし、現在の全犯罪のうち再犯者率は約半分近くあり、年々増加しています。また、対象を過去五十年間の調査に広げると、全犯罪の六割を再犯者が実行していることが分かりました。つまり、日本の治安を守るためには、再犯を防止することが重要だといえます。

それでは何故、刑務所で反省し社会復帰を目指しているはずの出所者は、再び罪を犯すのでしょうか。資料によると再犯者の七

十パーセントが無職で、約二割が住所不定となっています。つまり、犯罪者に対する社会からの厳しい目や差別などが原因で、出所後の住居が確保できなかったり、就職先が見つからず、生活や金銭面で立ち行かなくなり、何度も罪を重ねてしまうという悪循環に陥っているのです。この悪循環を断ち切るためには、刑務所での職業訓練や社会復帰のサポートを手厚くすることが必要だと思います。その仕組みとして、出所者を地域で支える保護司や、協力雇用主などがあります。以前、保護司や協力雇用主についてのニュースを見たことがあります。保護司は、ボランティアで出所者を親身になって見守ったり、根気強く熱意を持って指導され、出所者は社会復帰ができました。このような保護司の活動は、社会に貢献する大切な仕事だと思います。協力雇用主は、犯罪歴のために仕事に就くことが難しい人たちを雇用し、立ち直りを支援する業者です。協力雇用主にとって出所者を雇うことは、再犯などの裏切りによって苦勞が絶えず、企業の風評被害のリスクも伴います。しかし、協力雇用主は、この事を理解した上で出所者

が更生し自立できるように、温かい気持ちで根気強く向き合っていて、この方たちも、裏切られても見捨てず信じ続けるという姿を見んだと感じました。さらに、日本は治安が良い国であり、犯罪も減少しているという事実は保護司や協力雇用主などの方々が縁の下の力持ちとなり、熱意を持って出所者が社会復帰できるように支援し続けてくださったからだという事を知り、有り難く思いました。

それでは、私たち一人一人にできることはあるのでしょうか。それは、罪を償い社会復帰しようと努力している人を差別したり、偏見の目で見たりせずに、温かく見守ることでないでしょうか。私も、生徒会でのあいさつ運動や、地域の清掃などを通して、身近な人とのつながりなどを大切にしていきたいと思います。

「日本は本当に治安が良いのか。」それは、一人一人が持つ意識の違いで、これからよりよい日本になっていくのではないのでしょうか。

